朝鮮通信使 外交の足場に

静岡で徳川みらい学会

作家・辻原さんら講演

家康公顕彰400年

徳川時代の歴史的意義を研究、発信する「徳川みらい学会」（会長・芳賀徹県立美術館長）の本年度第2回講演会（静岡新聞社・静岡放送後援）が19日、静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニアで開かれた。江戸時代に朝鮮王朝が日本に派遣した外交使節「朝鮮通信使」に詳しい芥川賞作家の辻原登さんら2人が講演した。

朝鮮通信使をテーマに講演する作家の辻原登さん
＝19日午後、静岡市葵区

辻原さんは、豊臣秀吉の朝鮮出兵以来、泥沼化していた日朝関係を徳川家康がさまざまな方法で改善し、朝鮮通信使をはじめとした外交の足場をつくったことを紹介。朝鮮通信使を題材にした自身の小説「韃靼の馬」や森鷗外の「佐橋甚五郎」に触れ、何らかの理由で朝鮮に残留・帰化した日本人が、朝鮮通信使に混じり込んでいた可能性などにも言及した。

日朝外交に詳しい河棕文・京都大客員教授も「400年前の通信を甦（よみがえ）らせよう」と題し講演した。

講演に先立ち、同学会の総会も行い、国際シンポジウムの開催などを盛った本年度事業計画などを承認した。

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます